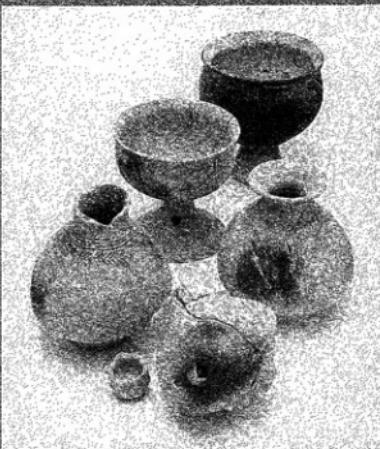


# 田見合遺跡

Tamai site - The 1<sup>st</sup> excavation report -

一浜松市 市野町 田見合遺跡 1次発掘調査報告書



2002年12月

(財) 浜松市文化協会

The Association for Cultural Creation, Hamamatsu City



## 例 言

- 1 本書は静岡県浜松市市野町における、田見合（たみあい）遺跡の発掘調査（平成14年度、教文第3036号）にかかる報告書である。
- 2 発掘調査は老人保健施設新築工事に先立ち実施した。発掘調査は事業者（医療法人社団 緑牛会）が財団法人浜松市文化協会に委託し、浜松市博物館が調査の指導にあつた。調査にかかる費用は全額委託者が負担した。
- 3 今回の調査にかかる日程は以下の通りである。

試掘調査	2001年11月13日
本調査	2002年6月6日
整理作業	2002年7月1日～12月20日
- 4 試掘調査は浜松市教育委員会が実施した。この調査で出土した遺物は、別途に報告される予定である。
- 5 田見合遺跡の発掘調査は今回が初めてである。今回の調査を1次調査とする。
- 6 現地調査および整理作業は、梅田晃、鈴木一有、石橋直也、井口智博（以上、浜松市博物館）、中村玲子（浜松市文化協会）、原田和子が担当した。報告書の執筆、写真撮影は鈴木が行った。
- 7 調査にかかる諸記録および出土遺物は、浜松市博物館が保管している。
- 8 本書で用いる方位は真北を示す。標高は海拔である。方位は、調査地区の測量図を2500分の1地形図に合成して求めた。標高は2500分の1地形図に表記がある道路上の値（平成9年度版、姫街道上、標高値8.9m）を基準にした。

## 目 次

### 例 言

#### 第1章 序 論

1 調査経緯 .....	1
2 田見合遺跡をとりまく自然環境 .....	2

#### 第2章 調査成果

1 調査の概要 .....	4
2 調査成果 .....	6
3 まとめ .....	10

#### 図 版

#### 報告書抄録

# 第1章 序論

天竜川平野の中央に位置する天王低地には、多くの遺跡が埋没している。田見合遺跡は、天王低地の北側に立地する弥生時代後期の大規模集落として注目されていたが、今回はじめて発掘調査をすることになった。

## 1 調査経緯

**遺跡の位置** 田見合（たみあい）遺跡は、静岡県浜松市市野町に位置する（Fig.1）。市野町は天竜川が形成した沖積平野の中央に所在し、現在、主要幹線沿いに市街地化が急速に進行している。とくに、浜松市東部と細江町をつなぐ姫街道沿いには商業店舗や各種事業所が密集する傾向が強く、かつての景観が著しく改変されつつある。

**調査経緯** 豊富な採集資料の存在から、市野町に多くの遺跡が埋没していることが従来から予想されていた。しかし、町内において大規模な開発事業が実施されることが少なく、本格的な発掘調査の機会も希であった。田見合遺跡では1982年に大量の弥生土器が出土し、弥生時代後期の大規模な集落である可能性が指摘された。しかし、遺跡は平坦な水田面に覆われ、現況の微地形や遺物の分布状況から、遺跡の範囲を推定することは困難であった。大量の遺物が存在するものの、その詳細は長らく不鮮明な状態が続いていた。

2001年、かつて遺物が大量に出土した地点の南東側において、老人保健施設の新築工事が計画された。開発予定地における遺跡の埋没状態は全く不明であり、浜松市教育委員会により試掘調査が実施されることになった。

試掘調査では、開発予定地に良好な状態で遺跡が保存されていることが判明し、弥生土器も比較的大量に出土した。この結果を受け、遺跡の取り扱いを巡る協議が事業者（医療法人社団 緑生会）と浜松市教育委員会の間で行われ、建物部分は盛り土による遺構保存をはかること、遺構面まで掘削するオイルタンク及び放流部埋設部分の2地点に限り、事前の発掘調査を実施することが決定された。

発掘調査は2002年6月6日に実施した。

調査面積は25 m<sup>2</sup>である。

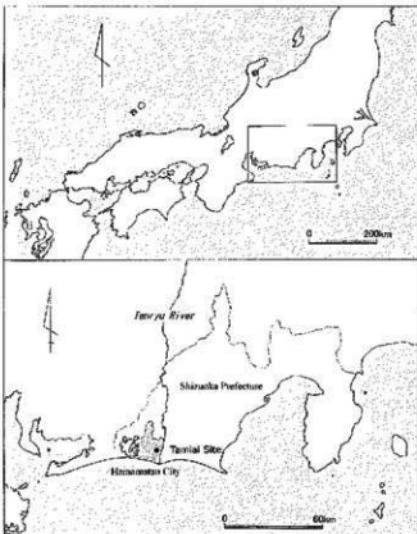


Fig.1 田見合遺跡の位置

## 2 田見合遺跡をとりまく自然環境

**沖積平野の概況** 田見合遺跡は、天竜川が形成した氾濫平野上に立地する。天竜川の流路は三方原台地と磐田原台地の間において、絶え間ない変更を繰り返しており、天竜川は支流が入り乱れた幾筋もの集合体として考えるほうが実態に近い。天竜川の主要な流路は痕跡として現在の小河川に引き継がれている。市野町の東側を流れる安間川は現在でも安定した水量を保ち、かつて天竜川の主要な流路の一つであったと考えられる。

**天王低地** 田見合遺跡が立地する氾濫平野は、南北約3km、東西約1.5kmの範囲におよぶ。この平野の広がりは加藤芳郎によって「天王低地」と呼称され、氾濫平野としては天竜川流域で最大規模を誇る。加藤によると、天王低地の大部分は縄文時代まで水域であり、弥生時代になって泥土の堆積が進み水田として活用できるようになったという（加藤1994、笄輪遺跡報告）。田見合遺跡は天王低地の北側中央に位置しており、弥生時代後期には天王低地の開発もある程度進行していたことを裏づける。

現況から天王低地の中の微地形を復元することは困難であるが、低地の中の微高地上に集落が形成されていたと推定できる。天王低地の範囲内における遺跡の埋没状況は不明な点が多く、今後の調査にかかる期待が大きい。

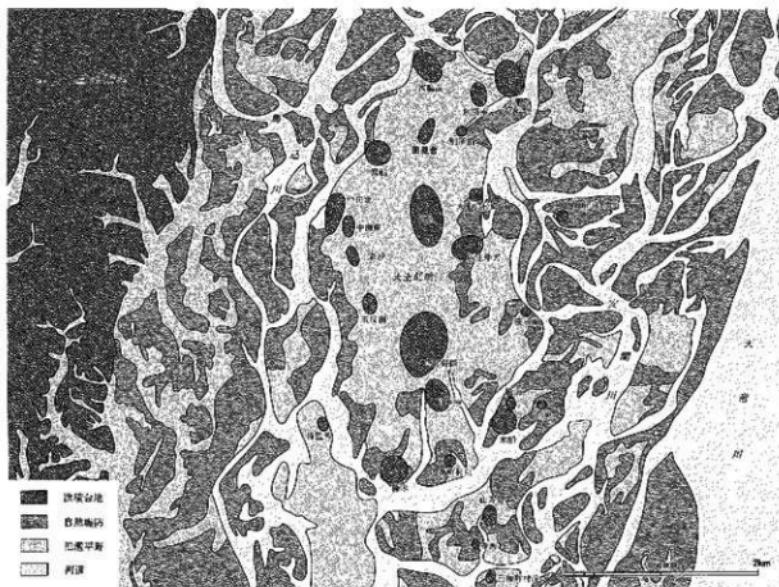


Fig.2 天王低地を中心とした自然地形と遺跡の立地

Tab.1 長上地区における主要な遺物出土記録および発掘調査一覧

遺跡名	所在地	調査・出土時期	調査主体など	主な時代	文献
長上地区一帯(探査)		1960年代以前	[遺物探査]	弥生~鐘乳	長上郷土研 1959
市野(安養寺)	市野町	1959.3	長上郷土研究会	弥生	長上郷上研 1959
別所前(探査)	市野町	1977.3	[遺物探査]	弥生	浜松市 2002a
山見合(探査)	市野町	1982.4	[遺物探査]	弥生	鈴木 1985
田見合(試掘)	市野町	2001.11	浜松市教育委員会	弥生	浜松市 2003
田見合1次	市野町	2002.6	浜松市文化協会	弥生	浜松市 2002b
中田北(試掘)	中田町	2000.4	浜松市教育委員会	奈良末~平安	未報告
箕輪	小池町	1992.8 ~ 1992.11	静岡県埋蔵文化財調査研究所	古墳~奈良	静岡県 1994
天王寺中野1次	天王町	1977.4 ~ 1977.6	浜松市教育委員会	弥生~奈良	浜松市 1981
天王寺中野2次	天王町	1995.12 ~ 1996.3	浜松市文化協会	弥生~奈良	浜松市 1997
天王寺中野(試掘)	天王町	2000	浜松市教育委員会	弥生~奈良	浜松市 2002a
天子町村東	天子町	2002.1	浜松市文化協会	奈良末~平安	浜松市 2002a

[文献]

長上郷土研 1959	長上郷土研究会	1959	『長上郷土資料 (二) 安普寺遺跡について』
浜松市 1981	浜松市遺跡調査会	1981	『浜松市天干山野跡発掘調査報告書』
鈴木 1985	鈴木龍造	1985	『山見合遺跡の弥生土器』『転機』刊行号
静岡県 1994	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	1994	『玄輪遺跡』
浜松市 1997	(財)浜松市文化協会	1997	『天王町野跡跡』
浜松市 2002a	(財)浜松市文化協会	2002a	『天王町東通跡』
浜松市 2002b	(財)浜松市文化協会	2002b	『田川吉合遺跡』(本書)
浜松市 2003	浜松市教育委員会	2003	『浜松市遺跡調査実績』(刊行予定)

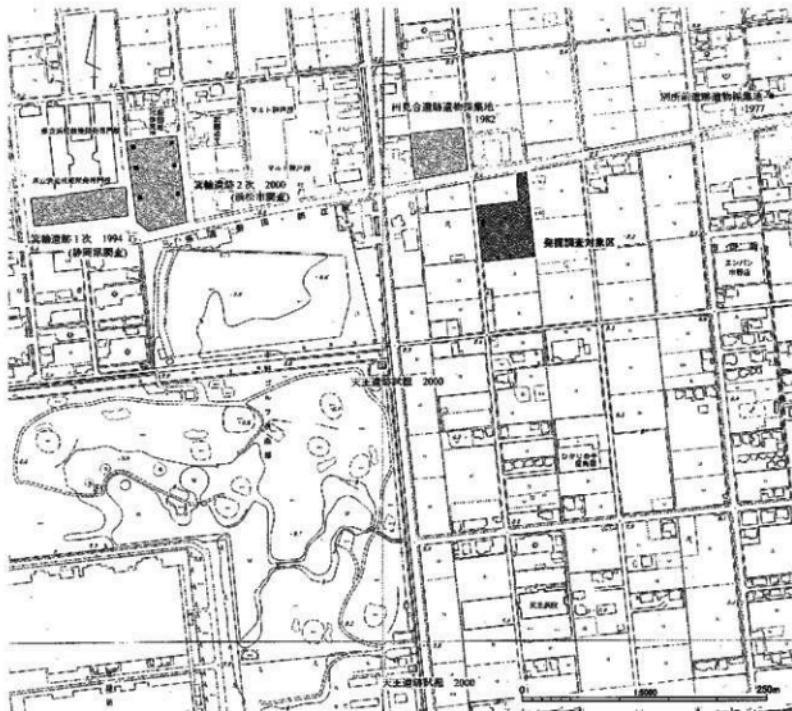


Fig.3 発掘調査地点とその周辺

## 第2章 調査成果

田見合遺跡の調査では弥生時代後期の集落が確認できた。検出した遺構の中でも、断面V字形の溝が注目できる。溝からは土器が大量に出土しており、集落の範囲を区画する環濠の可能性がある。

### 1 調査の概要

#### (1) 試掘調査

**試掘区の設定** 試掘調査では、開発対象地のほぼ全面にわたり、土層堆積状況を確認するための試掘坑を設定した。この調査では、現地表である水田面から50～80cmほどの深さで弥生時代後期の遺構面が全域にわたり確認できた。遺構面が高い区域においては、試掘坑9のように、現地表から30cmほどの深さで多量の弥生土器が出土する部分も存在していた。田見合遺跡の保存状態は全般的に極めて良好であり、埋没している遺物量も多いと予想できる。

今回報告する調査は、この試掘坑を設定した部分に重なる。本調査のA区には試掘坑1が、本調査のB区には試掘坑12が相当する。

**基本層位** 田見合遺跡における堆積層位をFig.4に示す。基盤層は緑灰色～青灰色を呈する砂層(6層)である。基盤層は、浅い部分では緑灰色を呈しシルト質に近く、深い部分では青灰色を呈し、構成粒子も粗くなる。調査対象地内でも基盤層の比高差は60cm以上にわたり、比較的、起伏が激しいといえる。現在、遺跡とその周辺は平坦な水田面が広がっているが、弥生時代には複雑に高位面と低位面が交錯する地形であったと推定できる。

基盤層の上位には遺物包含層である黒色粘土(5層)が堆積している。試掘坑9では、この層から大量の弥生土器が出土している。環濠など、大型遺構の上面に埋まつた遺物の可能性があり、弥生時代の生活面がこの層の近くにあったと推定できる。

5層より上位には、灰色や褐色を呈する粘土層(2～4層)が堆積している。これらの層から出土する遺物は少なく、弥生時代後期以後の自然堆積により形成されたものと考えられる。

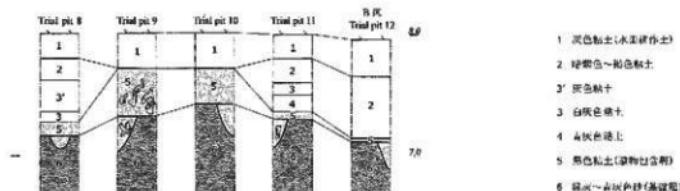
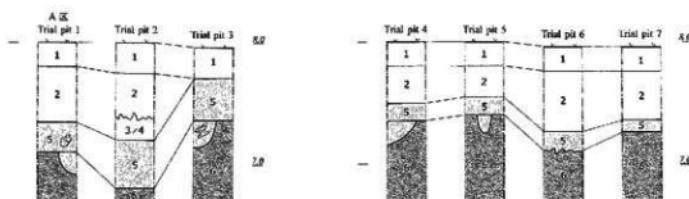
1層は水田耕作上である。田見合遺跡では、弥生時代後期の遺構が良好な状態で埋没しており、表面に弥生土器片が散乱するような状況は認められない。水田面の標高も、遺跡が確認される地点と遺跡が確認できない地点との差がみられず、表層の観察で地中の状態をうかがうこととは非常に困難である。

#### (2) 本調査

**調査地区的設定** 本調査は、オイルタンク及び放流部埋設部分の25m<sup>2</sup>において実施した。北西部の調査区(オイルタンク)をA区、南東部部分の調査区(放流部)をB区とする。

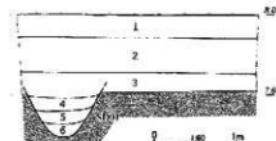
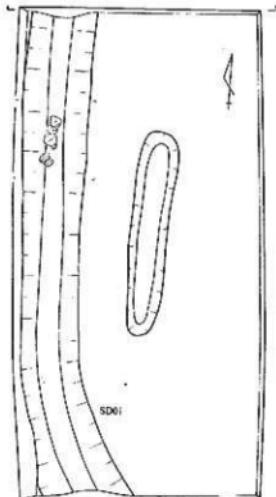
A区においては、幅約1m、深さ60cmほどの断面V字形の溝を長さ6mにわたり検出した。溝からの出土遺物も多く、遺構の特徴から、この溝は環濠の可能性がある。

B区は、僅か5m<sup>2</sup>ほどの小規模な調査区であるが、こちらも環濠の可能性がある大規模な溝を検出した。



- 1 淡色粘土(水田耕作土)
- 2 紫褐色～褐色粘土
- 3' 灰色粘土
- 3 白灰色粘土
- 4 黑色粘土(腐物付合土)
- 5 青灰～青灰色砂(基礎層)

Fig.4 田見合遺跡の上層堆積状況



1 紅色粘土(水田耕作土)  
2 黄色粘土  
3 棕色粘土(樹木物混じり)  
4 黑色粘土  
5 棕色粘土  
6 棕色粘土(砂混じり)

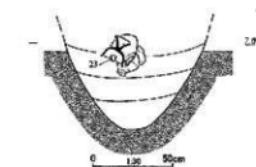
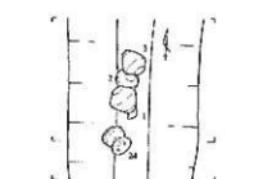


Fig.5 A区検出遺構

## 2 調査成果

### (1) A区の調査

**概要** A区は20m<sup>2</sup>ほどの調査区であり、基盤層である緑灰色砂層の上面において遺構を検出した。調査区の西端で溝(SD01)が検出されたが、検出面より上位で多くの弥生土器が出土した。SD01以外には細長く浅い溝状遺構を検出した程度で、遺構の頻度は少ない。

調査時は湧水が顕著であり、数時間しか調査ができなかつた。条件を整えれば、基盤層直上において柱穴などの小規模な遺構を検出できる可能性がある。

**推定環濠(SD01)** 調査区の西側において、長さ6mに及ぶ溝を検出した。溝の幅は約1m、深さ60cmほどを測り、溝の断面はV字形を描く。遺構の特徴から、SD01は集落を取り囲む環濠の可能性がある。溝内の埋土は3層に分離できるが、下層においては出土遺物量が少ない。遺物の大半は、最上層(4層)かましくは包含層との区別が難しい溝上層部分から出土している。

SD01には、完形に近い土器が集中している区域が認められた。壺が3点(1~3)、高环(24)が上下逆になって出土している。高环(24)の坏部には、手捏ね土器(23)が入れられた状態が確認でき、これらの土器群は儀礼など、なんらかの祭祀的な意味をもって投棄された可能性が大きい。

**SD01出土遺物** (Fig.6・7) SD01からは比較的多量の弥生土器が出土した。Fig.6に示したものは、壺もしくは鉢である。1~3は共に遺物が集中する区域から完形に近い状態で出土した。頸部に明確な屈曲をもたない形態をなし、菊川式土器との共通性が強いといった天竜川平野の上器に広くみられる特徴をみせる。12~13といった扁状文の多用も、天竜川平野における土器様式の特徴の一つに加えることができるだろう。

Fig.7の上段(24~40)には高环を、下段(41~47)には甕を示す。23の手捏ね成形の小型壺は、高环(24)の坏部に入れられて出土している。

SD01から出土した遺物は、弥生時代後期前半(山中様式)の新相に位置づけることができる。

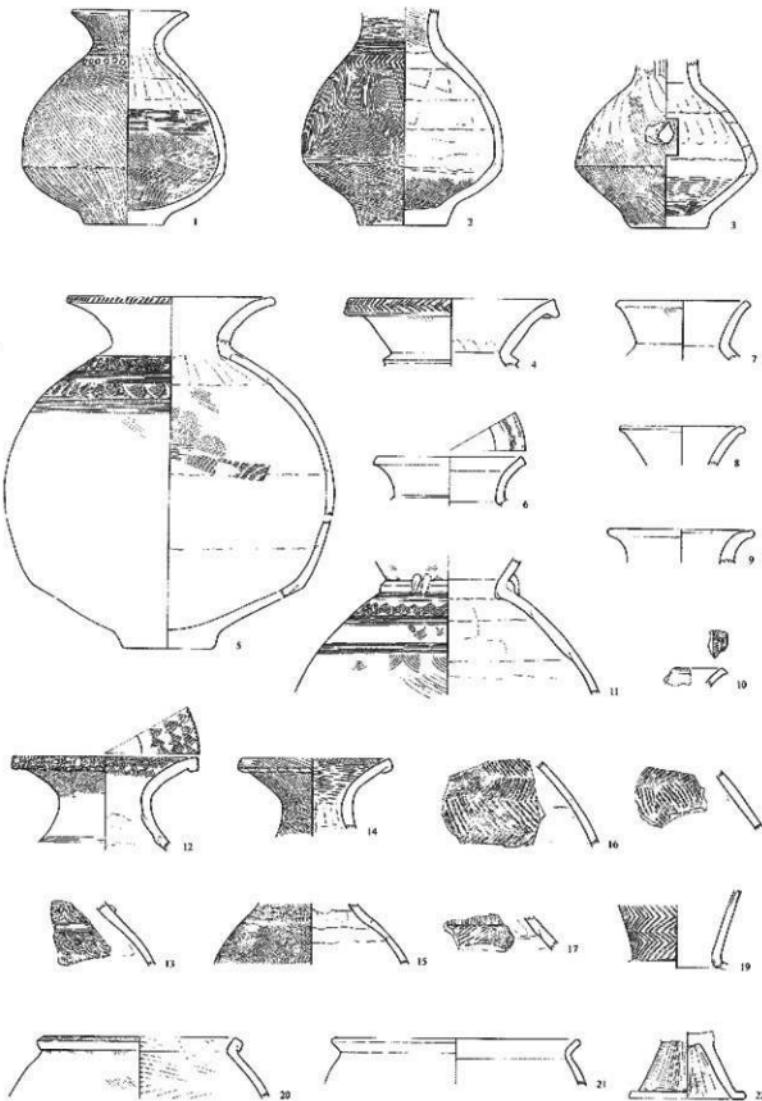


Fig.6 SD01 出上遺物 (1)

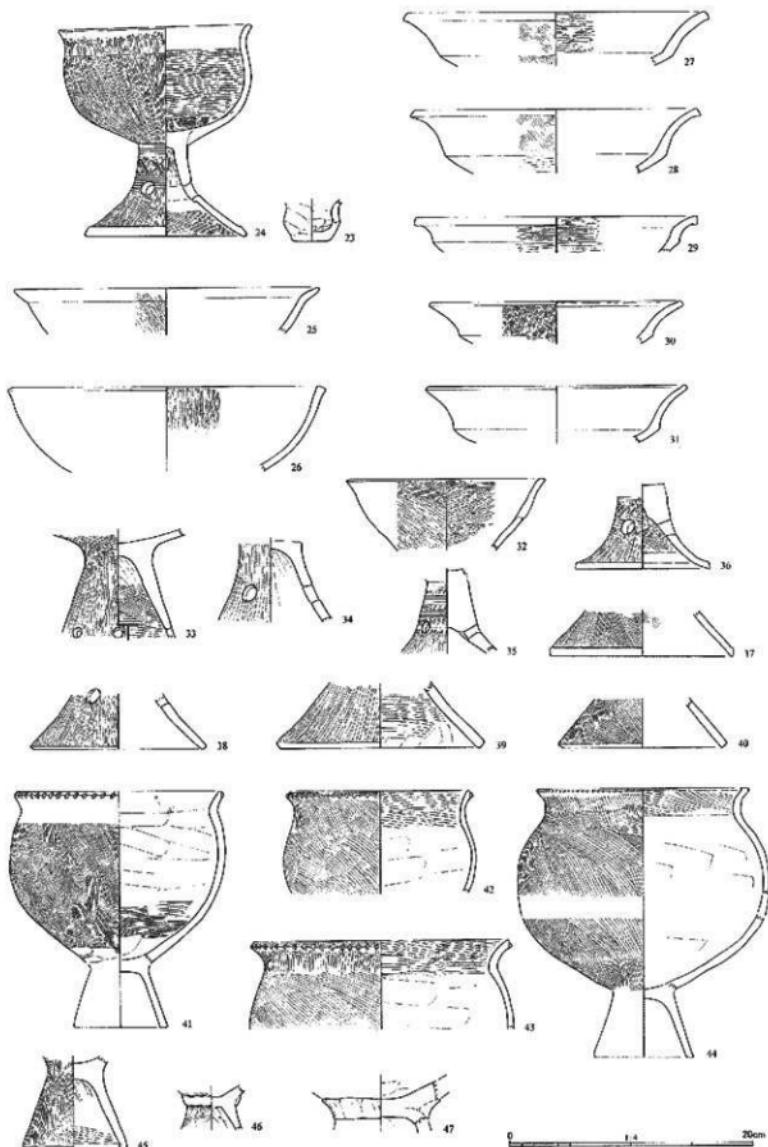


Fig.7 SD01出土遺物 (2)

## (2) B区の調査

**概要** B区は調査対象地の南東隅に設定したグリッド状の調査区である。上層と下層の二面において平面調査を実施し、それぞれ溝を一条づつ検出した。上層遺構は中世以降、下層遺構は弥生時代後期に相当する。

**SD02** (Fig.8) 上層において検出した浅い溝である。幅60cm、深さ15cmほどを測る。出土遺物はないが、検出した層位から、中世以降に掘削されたものと考えられる。

**SD03** (Fig.8) SD02の検出面より50cmほど下層において、幅1.5m、深さ60cmほどの大規模な溝を検出した。SD03の断面は緩やかなV字状をなし、埋土には有機物が堆積する層位(6層)が観察できた。溝から出土した遺物は少ないが、Fig.9に示す遺物の特徴から、SD03は弥生時代後期に掘削されたものと考えられる。

同時期の溝はA区で検出したSD01のほか、試掘坑9、10、11においても検出されている(Fig.4)。試掘坑9、10、11はB調査区の北側にあたり、埋土の状態も酷似する。以上のことから、SD03と試掘坑で確認できた溝は同一の遺構である可能性が考えられる。

SD03は、基盤層の標高が高い区域において南北に設定されている。集落内の空間を縦断するように溝が掘削されていると想定すれば、内濠といった居住空間を区画する遺構であったとも考えられる。

**SD03出土遺物** (Fig.9) Fig.9に示した48～50はSD03から出土した遺物である。48・49は壺の肩部模様帶、50は甕の口縁部に相当する。いずれも詳細な時期を決めるまでには至らないが、弥生時代後期前半(山中様式)の新段階と捉えてよいだろう。なお、49のような幅が広い条線が残る原体を使用した扇状文は、天竜川平野地域によくみられる。

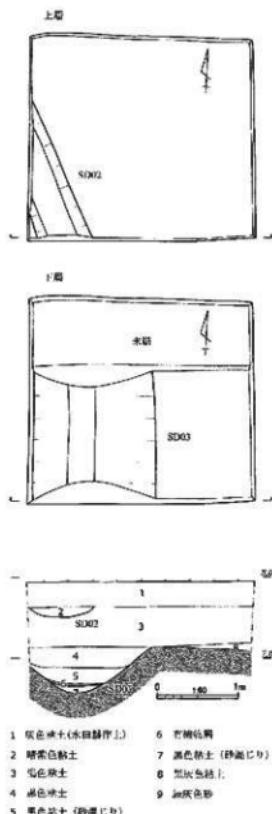


Fig.8 B区検出遺構

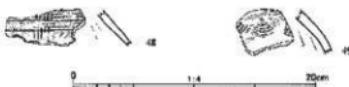


Fig.9 SD03出土遺物

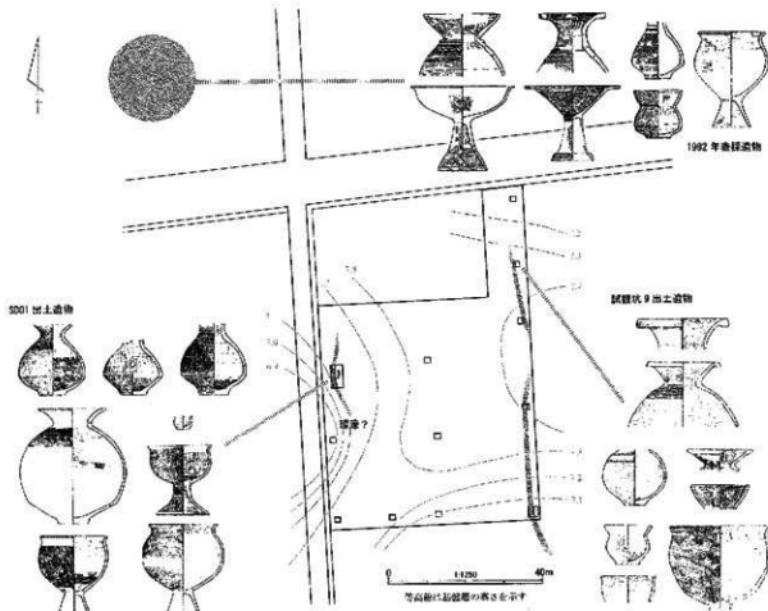


### 3 まとめ

**田見合遺跡の詳細** 今回の調査によって、田見合遺跡にかかる詳しい遺構の埋没状況がはじめて判明した。田見合遺跡の現況は耕地整理を経て平坦な水田が広がっているが、弥生時代の地形は50cm以上の高低差がある複雑な微地形が展開していたことが明らかになった。天干低地上の微高地を居住域とし、周囲に広がる低位面を水田として利用していた集落景観が復元できる。

1982年に採集された遺物の中に弥生時代中期に満る土器が含まれるもの、出土遺物の圧倒的多数は弥生時代後期のものである。また、環濠と推定できるSD01から出土した土器などを参考にすると、田見合遺跡の本格的な集落形成の時期を、おむね弥生時代後期前半（山中様式）の新相段階に位置づけることができる。

**遺跡の広がり** 今回の調査対象地には比較的良好な状態で遺構が埋没しており、1982年の遺物採集地にかけて居住域が展開していると考えられる。調査対象地の西側と南側には低位面が広がっており、水田が営まれていた可能性が高い。





1 A区検出遺構



2 SD01断面

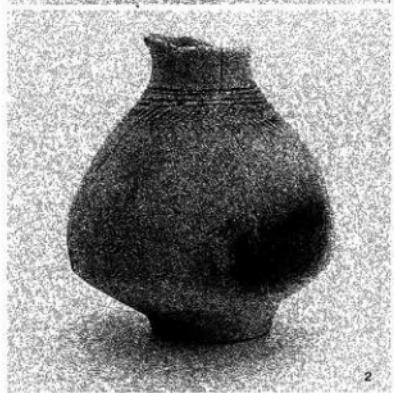


3 B区検出遺構

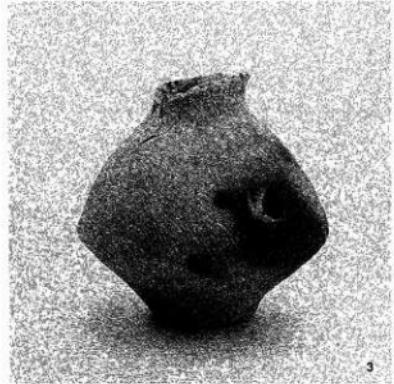
PL.2



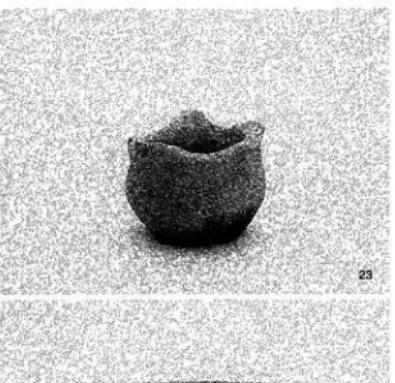
1



2



3



23



24



41

SD01 出土遺物

## 報告書抄録

書名(ふりがな)	田見合遺跡(たみあいせき)						
編著者名	鈴木一有						
編集機関	浜松市博物館 静岡県浜松市桜塚4丁目22-1 TEL(053)456-2208						
発行機関	財団法人 浜松市文化協会 静岡県浜松市早馬2-1 TEL(053)453-5234						
発行年月日	2002年12月20日						
ふりがな 遺跡名	所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
たみあいせき 田見合遺跡	静岡県 浜松市 市野町	22202 14.3	34度 44分 21秒	137度 46分 10秒	2002年 6月6日	25m <sup>2</sup>	老人保健施 設新築工事 に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
田見合遺跡	集落	弥生時代後期	(環濠の可能性 がある)	弥生土器	山中様式新招の 環濠集落か		

### 田見合遺跡

—浜松市 田見合遺跡 1次発掘調査報告書—

2002年12月20日 発行

編集機関 浜松市博物館

〒432-8018 静岡県浜松市桜塚4丁目22-1

TEL(053)456-2208 FAX(053)456-2275

発行機関 (財)浜松市文化協会

印刷 中部印刷株式会社

## Tamai site

The 1<sup>ST</sup> excavation report

## Hamamatsu Historical Museum

Shijimizuka 422-1 Hamamatsu City,  
Shizuoka Prefecture, Japan 432-8018

December, 2002

The Association for Cultural Creation, Hamamatsu City